

8. 冠動脈バイパス術における術前脳血流 SPECT の意義

丸野広大 (虎の門病院)

冠動脈バイパス術 (CABG) において、対象患者が高齢化するとともに術中脳梗塞の発症が問題となっている。特に、脳血管障害を合併した患者では脳灌流圧低下による脳梗塞が生じやすいことが分かっており、当施設では1994年より高齢者または脳血管障害合併が疑われる患者に対し、術前にDIAMOX負荷脳血流 SPECTを行い、脳循環予備能が低下している症例では拍動流体外循環、低侵襲CABG、脳血行再建後にCABGを施行するなどの方法をとってきた。今回、術前脳血流SPECTが術中脳梗塞の予防に有用であるかを調べるため、1999年6月までにCABGを施行した全1726例について検討した。術中脳梗塞発症例は1993年以前は1125例中15例 (1.3%) であったのに対し、術前脳血流SPECTを開始した1994年以後は601例中4例 (0.66%) と半減しており、術前脳血流SPECTは有用と考えられた。

9. G-CSF 投与によるマウス骨髄細胞に集積する ^{14}C -methionine の変化—マイクロオートグラフィを用いて—

今井康則, 吉川京燦, 古賀雅久
村田 啓, 棚田修二, 佐々木康人
(放医研)
岡田淳一 (成田赤十字)

前回我々はマウス骨髄細胞にマイクロオートグラフィを施行し ^{14}C -methionine の集積する細胞の同定を試みた。その結果、好中球、リンパ球に比して巨核球に多くの grain が見られた。今回はG-CSFを用いてマウス骨髄細胞に集積する ^{14}C -methionine の変化を調べた。週令7~9週のマウスを用いた。全身照射4Gy後G-CSFを投与し、照射後7日目にマイクロオートグラフィを施行した。そして、骨髄細胞内の grain 数をカウントし、対照群と比較した。

好中球、リンパ球ではG-CSF投与群で grain 数は有意に増加していたが、巨核球では両群間で有意差は認められなかった。G-CSFにより個々の好中球、リンパ球への methionine の取り込みが増加している可能性が示された。

10. 膿胸原発悪性リンパ腫の放射線治療成績

有賀 隆, 伊丹 純, 中島香織
柴田幸司, 能城 毅, 有賀守代
(国立国際医療センター)
根本和久 (船橋中央)
三上明彦 (国療東京)
安田茂雄, 宇野 隆, 磯部公一
原 竜介, 町田南海男, 伊東久夫
(千大)

[目的] 膿胸由来のリンパ腫 (pyothorax-associated; PAL) は肺結核の治療として行われた人工気胸術後の膿胸に合併する事が知られている。しかし治療方法については定説が無く、放射線治療を中心とした治療成績を検討した。

[方法] 4施設8症例を検討対象とした。平均年齢67歳・人工気胸術後発症までの期間は35年?49年・男女比7:1, 組織型はdiffuse large, 7例, diffuse mixed 1例, Ann-Arbor分類で1期が6例, 2期が2例, International Prognostic Indexは4例がlow intermediate risk, 4例がlow riskであった。

[結果] 放射線治療は7例で施行され、治療中の肺炎により1例は死亡し、1例が照射野辺縁再発後死亡した。局所制御 (CR-u) 5例のうち1例は脳転移で死亡した。初回治療でCHOP等の第3世代化学療法を施行した4症例全てPDで2例は放射線治療により制御された。照射線量は治療死した1例を除き50Gy以上だった。照射野は全膿胸を含めたものと局所的なものがあったが、辺縁再発を生じた症例は胸壁に再発しており膿胸全体を照射野に含める意義は不明であった。

[結論] 文献的にもPALは局所制御が重要であり、良好な成績は胸膜肺全摘術のような拡大手術で報告されているのみである。今回検討例では放射線治療により局所制御が期待できると考えられ、胸壁沿いに十二分なマージンをとった局所照射野で総線量50Gy以上が望ましいと考えられた。

11. 全身 Ga-67 SPECT の有用性

戸川貴史, 油井信春 (千葉がん核)

SPECTは腫瘍診断に極めて有用であるが、これまでには、腫瘍が局在する部位のSPECTのみを撮像するというのが一般的な方法であった。しかし、腫瘍患者においては全身検索が必要であり、全身SPECTが重要である。今回、Merged SPECTとTEW法およびMIP (Maximum Intensity Projection) 法による全身Ga-67 SPECTを悪性リンパ12例に行い従来のGa-67全身像と比較した。CTまたは触診で確認された70病巣中、全身Ga-67 SPECTでは62病巣 (88.6%) が、従